

## (資料1)

### 評議員会報告 会員総会資料

#### 会則変更

昨年度の(通常)評議員会および会員総会にて、本学会運営に関して様々な疑義が呈された。その疑義について、2023年8月15日および2024年1月30日に臨時評議員会がZOOM上で開催された。その会議において、当学会の会則・細則の変更が提案され、審議の結果、評議員会は、この改訂案の是非を会員総会の中で評決することに決定した。(臨時評議員会議事録および会則・細則の新旧対比表は、本学会ホームページ参照)

#### 各委員会・幹事報告

##### 企画報告

- 1) 昨年度、第77回日本生物地理学会大会は、昨年同様COVID-19の感染状況を鑑み、ZOOMを利用したネット上での開催となり、2023年4月8日(土)に市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか?『人類は戦争をやめることができるのか?』」を、4月9日(日)に一般発表9部の講演、その後、シンポジウム「動物の名前:多様性の理解と自然知の伝承をめぐって」を開催した。

##### 庶務報告

###### 1) 臨時評議員会の開催

昨年度の(通常)評議員会および会員総会にて、本学会運営に関して様々な疑義が呈された。その疑義について、2023年8月15日および2024年1月30日に臨時評議員会がZOOM上で行われた。(詳細は、ホームページ上の8月15日評議員会議事録PDF 1月30日評

議員会議事録を参照)

- 2) 第 78 回日本生物地理学会大会は、Web ページ上で行ったアンケート結果を鑑み、ZOOM を利用したネット上での開催となった。2024 年 4 月 13 日（土）に一般発表 4 部の講演、その後、市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか？『人類の生成と消滅』」を、4 月 14 日（日）にシンポジウム「『進化思考』の光と影」を開催した。
- 3) 長年英文誌の編集委員長にであった陰山大輔氏に代わり 2,024 年度より本村 浩之氏（鹿兒島大学総合研究博物館）が就任した。
- 4) 広報委員長であった春日井治氏が辞任。新広報委員長として横川浩治氏が就任した。
- 5) 日本生物地理学会通信：第 56 号を 2023 年 9 月 20 日に発行した。
- 6) 生物科学学会連合より NPO 法人動物実験関係者連絡協議会が国会議員に提出するほうしんである要望書「ピアレビューによる動物実験の機関管理と認証評価に関する特別法制定についての要望」への賛同が求められた。事務局会にてメール上での審議の上、賛同した。
- 7) 日本分類学会連合 標準和名問題検討ワーキンググループから協力依頼のあったアンケートへの回答を編集委員で行った。
- 8) 生物科学学会連合より、科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書への協力が求められた。具体的な協力は、（1）要望書の趣旨への賛同（2）署名サイトへの提案者として学会名の掲載（3）学会のホームページや SNS サイトに署名サイトについての呼びかけの掲載。である。事務局会にてメール上での審議の上、賛同した。

## 広報報告

- 1) 2023 年 4 月の評議員会の結果、会員からアンケートを取ることが決まり、6 月に会員から関心のある研究分野、学会に対する希望などを聞いた。また、8 月の評議員会の結果、

大会の開催方法などについて会員からアンケートを取ることが決まり、12月に会員からアンケートを取った。これらの結果は、会員向けホームページの調査のページに掲載した。ホームページには、大会企画の紹介、ポスター、会員からの写真などを掲載した。

## 編集委員

### 和文誌

日本生物地理学会会報 第78号は、2023年12月20日に発刊（原著論文17、論考1、書籍紹介10 No.58-67 Biogeography Vol.25 和文要約 会則他含む）143ページ

第79号は、2024年4月10日現在、投稿3論文（うち受理済み2論文）、例年通り2024年12月20日発刊予定

### 英文誌

Biogeography Vol.25 は 2023年9月20日に発刊（原著論文 10）54ページ。

Vol.26 は、2024年4月10日現在、投稿4論文（うち受理済1論文）。例年通り2024年9月20日発刊を予定。

## 会計報告（資料2・資料3参照）

### 確認事項

- 1) 会則・細則の変更提案の承認決議
- 2) 第79回日本生物地理学会大会（2025年大会）

**2025年4月12日（土）～13日（日）（予定）於 ZOOM 開催**

- 3) 論文誌の電子書籍化に関する件。

その他